

審議資料 No.1-2

令和2年3月23日
第2回市総合計画審議会
総務企画部政策担当

第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略 の策定について（概要）

令和2年3月23日
遠野市

1 第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略の構成

第1章 遠野市人口ビジョン（調査分析）

人口ビジョンの位置付け、対象期間、国の長期ビジョン、岩手県の人口の推計、遠野市の人口現状分析、現状調査のまとめ、人口減少に伴う影響、将来人口の推計

第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略

I はじめに

遠野市のつよみ、遠野市の将来像、総合戦略策定の趣旨

II これまでの取組の成果と課題

III 総合戦略策定にあたっての方向性

IV 総合戦略を進める上で重視する視点

遠野スタイル創造・発展と一体となったSDGsの推進、Society5.0の実現に向けた技術の活用、地域全体を見渡した地域経営の推進

V 総合戦略の展開

VI 重点プロジェクト

重点プロジェクト1 【雇用確保のための内発型・外発型商工業の振興】

重点プロジェクト2 【タフな農林畜産業の6次産業化と新たな仕事の創出】

重点プロジェクト3 【観光振興と交流人口の拡大による「で・くらす遠野」定住の促進】

重点プロジェクト4 【「子育てするなら遠野」の推進】

重点プロジェクト5 【高齢者の自立と社会参加の促進】

プロジェクトX 【人と人とのふれあいによる“しあわせ度”の向上】

分野横断プロジェクト1 【地方創生拠点「遠野風の丘」発展プロジェクト】

分野横断プロジェクト2 【遠野ふるさと再生プロジェクト～ホップの里から
ビールの里へ～】

分野横断プロジェクト3 【高校魅力化プロジェクト】

第3章 遠野市人口ビジョン（人口推計と将来展望）

2 第1章 遠野市人口ビジョン（調査分析）

1 遠野市人口ビジョンの位置付け

平成27年国勢調査を基礎数値とし、本市における人口や地域経済の現状を把握し、市民の認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望のための分析を行う。

2 人口ビジョンの対象期間

対象期間は、令和22年（2040年）とする。

3 国の長期ビジョン

社人研の日本の将来推計人口（平成29年推計）によると、2060年の総人口は約9,300万人まで減少する見通し、これに対し国は、40年後に1億人程度の人口を維持することを目指している。

4 岩手県の人口の推計

社人研の推計によると、2040年には約96万人となり、2015年の約128万人から25%減少。

5 遠野市の人口現状分析

年齢別人口、人口の推移、世帯構成の変化、自然動態の推移、男女別未婚率の推移、合計特殊出生率の推移、社会動態の推移、県内・県外別転出者数、高等学校卒業後の進学率など

6 現状調査のまとめ

本市の人口は昭和30年のピーク（47,110人）から減少を続け、市村が合併した平成17年の国勢調査では31,402人となり、平成27年の国勢調査では28,062人と約3,300人減少した。

平成30年の国の合計特殊出生率は1.42であり、遠野市は1.71となっているが、平均人口規模が長期的に維持される水準2.06には、とどいていない。

7 人口減少に伴う影響

高齢化による社会保障関係経費等の増加、比較的支出の多い子育て世代人口の減少による市内消費の縮小。公共施設・インフラの老朽化に直面する時期にあり、維持更新費の増大。人口減少による行政コストの増加。

8 将来人口の推計

平成27年国勢調査を基本とした平成30年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所の数値を用いて、将来人口を推計すると2040年には19,235人となる見込み。

3 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（1）

I はじめに

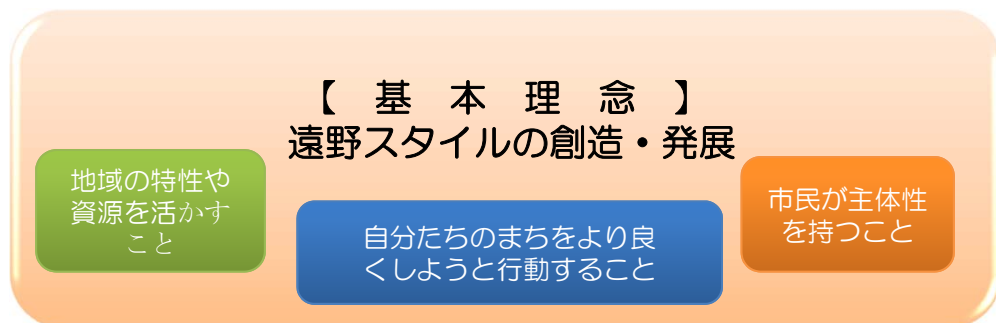
1 遠野市のつよみ

本市が持つ地域力は、豊かな自然・歴史を背景に培われた、文化を伝承してきた“住民の力”。

2 遠野市の将来像

本市は、まちづくりを進める基本構想として、市民と行政との協働活動による「遠野スタイルの創造・発展」を基本理念にまちづくりを進めてきた。

これまでのまちづくりへの基本的考え方と基本理念を踏まえ、「永遠の日本のふるさと遠野」を継承し、本市の将来像とする。



3 総合戦略策定の趣旨

まち・ひと・しごと創生法に基づく国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な方向性や政策5原則を基に、人口減少と地域経済の縮小の克服による、まち・ひと・しごと創生への好循環の確立を目指し、本市の最上位計画である第2次遠野市総合計画との整合性を図りながら、分野横断的に取り組むものであり、令和2年度から令和6年度までの5年間の戦略とする。なお、戦略は必要がある都度、見直しを行うものとする。

4 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（2）

II これまでの取組の成果と課題

平成27年度から平成30年度のKPIの達成率は、90%達成率によると概ね評価できる状況である。
 100%達成率では、重点プロジェクト1の産業関連が75%と重点プロジェクト2の農業関連が81%と高い状況である。
 一方で、重点プロジェクト3の観光関連が38%、重点プロジェクト4の子育て関連が17%、重点プロジェクト5の高齢者関連が25%と低い状況であることから、観光振興、子育て対策、高齢者対策での取組をより推進していく必要がある。

	プロジェクト名	KPI数	目標達成した指標数				合計 (達成率)	90%達成率	評価
			27年度	28年度	29年度	30年度			
重点プロジェクト1	雇用確保のための内発型・外発型の商工業の振興	3指標	3指標	2指標	2指標	2指標	9指標 (75%)	9指標 (75%)	○
重点プロジェクト2	タフな農林畜産業の6次産業化と新たな仕事の創出	4指標	4指標	4指標	3指標	2指標	13指標 (81%)	14指標 (88%)	◎
重点プロジェクト3	観光振興と交流人口の拡大による「で・くらす遠野」定住の促進	4指標	3指標	1指標	1指標	1指標	6指標 (38%)	11指標 (69%)	○
重点プロジェクト4	「子育てするなら遠野」の推進	3指標	2指標	0指標	0指標	0指標	2指標 (17%)	9指標 (75%)	○
重点プロジェクト5	高齢者の自立と社会参加の促進	3指標	0指標	1指標	1指標	1指標	3指標 (25%)	4指標 (33%)	△
プロジェクトX	人と人とのふれあいによる“しあわせ度”の向上	1指標 (TPI)	0指標	0指標	0指標	0指標	0指標 (0%)	4指標 (100%)	○
合計		18指標	12指標 (67%)	8指標 (44%)	7指標 (39%)	6指標 (33%)	33指標 (46%)	51指標 (71%)	

5 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（3）

Ⅲ 総合戦略策定にあたっての方向性

本市は、現状分析と歴史や文化による背景を踏まえ、人口減少の抑制と人口構造の若返りに取り組む基本的方向性として、次の4点を掲げる。

- 1 農村社会の価値を磨き、雇用の創出を図る
- 2 子育てを地域で支える
- 3 遠野で暮らしたい人が生活しやすい環境を整える
- 4 高齢者が元気に暮らす地域をつくる

Ⅳ 総合戦略を進める上で重視する視点

- 1 遠野スタイル創造・発展と一体となったSDGsの推進
- 2 Society5.0の実現に向けた技術の活用
- 3 地域全体を見渡した地域経営の推進

Ⅴ 総合戦略の展開

遠野スタイル創造・発展総合戦略の全体像		
4つの戦略と6つのプロジェクト+3つの分野横断プロジェクト		
総合計画 共通優先方針	戦略	プロジェクト
産業振興・ 雇用確保	戦略1 地域資源を生かした雇用の創出	重点プロジェクト1 雇用確保のための内発型・外発型商工業の振興 重点プロジェクト2 タフな農林畜産業の6次産業化と新たな仕事の創出
	戦略2 観光から交流、そして定住へ	重点プロジェクト3 観光振興と交流人口の拡大による「で・くらす遠野」定住の促進
少子化対策・ 子育て支援	戦略3 子育て支援の推進	重点プロジェクト4 「子育てするなら遠野」の推進
	戦略4 健康寿命の延伸	重点プロジェクト5 高齢者の自立と社会参加の促進
まちづくり 遠野力の結集		プロジェクトX 人と人とのふれあいによる“しあわせ度”の向上
分野横断プロジェクト		分野横断プロジェクト1 地方創生拠点「遠野風の丘」発展プロジェクト 分野横断プロジェクト2 遠野ふるさと再生プロジェクト～ホップの里からビールの里へ～ 分野横断プロジェクト3 高校魅力化プロジェクト

6 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（4）

VI 重点プロジェクト

重点プロジェクト1【雇用確保のための内発型・外発型商工業の振興】

- 雇用確保のための地域産業の活性化を推進
- 雇用確保のために企業の設備投資を促進
- 雇用確保のために誰でも安心して働ける環境づくりに取り組む

重点プロジェクト2【タフな農林畜産業の6次産業化と新たな仕事の創出】

- 農林畜産業者の売上や所得の拡大を目指す
- 農産物の加工・販売支援による6次産業化を推進し、新たな仕事の創出を推進
- 就農者と「農」に関わる人が増えることを目指す

重点プロジェクト3【観光振興と交流人口の拡大による「で・くらす遠野」定住の促進】

- 「永遠の日本のふるさと遠野」のコンセプトをもとに観光客の受入体制及び環境整備を進める
- 観光やイベント、交流を通して遠野ファンの拡大につとめる
- 移住者の多様化するニーズに対応し、受入環境の整備を進める

7 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（5）

VI 重点プロジェクト

重点プロジェクト4【「子育てするなら遠野」の推進】

- 出会いと子育てを社会全体で支えていく地域づくりを進める
- 本市を担う子どもたちの権利を尊重し、子どもが心身ともに健やかな成長を育む子育て環境づくりを進める

重点プロジェクト5【高齢者の自立と社会参加の促進】

- 高齢者が自立した生活を維持するため、食事や運動、休養など日常生活に留意し健やかな生活ができるよう、介護予防及び健康づくり活動を推進する
- 高齢者が、穏やかに生きがいを持って暮らすことができるよう、働くことや地域活動に参加することを推進するとともに、高齢者同士が支え合う「互助」の仕組みを構築する

プロジェクトX【人と人とのふれあいによる“しあわせ度”の向上】

- 住民が感じる“しあわせ度”の向上を目指す
- 自分の幸せと社会全体の幸せを深めるため、自らが地域づくりに関わるしくみづくりを推進する

8 第2章 遠野スタイル創造・発展総合戦略（6）

VI 重点プロジェクト

分野横断プロジェクト1【地方創生拠点「遠野風の丘」発展プロジェクト】

- 全国モデル道の駅として道の駅機能の充実を図る
- 道の駅の拠点性を活かし域内経済の好循環を目指す

分野横断プロジェクト2【遠野ふるさと再生プロジェクト ～ホップの里からビールの里へ～】

- 特産品を活用した観光やイベント、交流を通して遠野ファンの拡大に努める

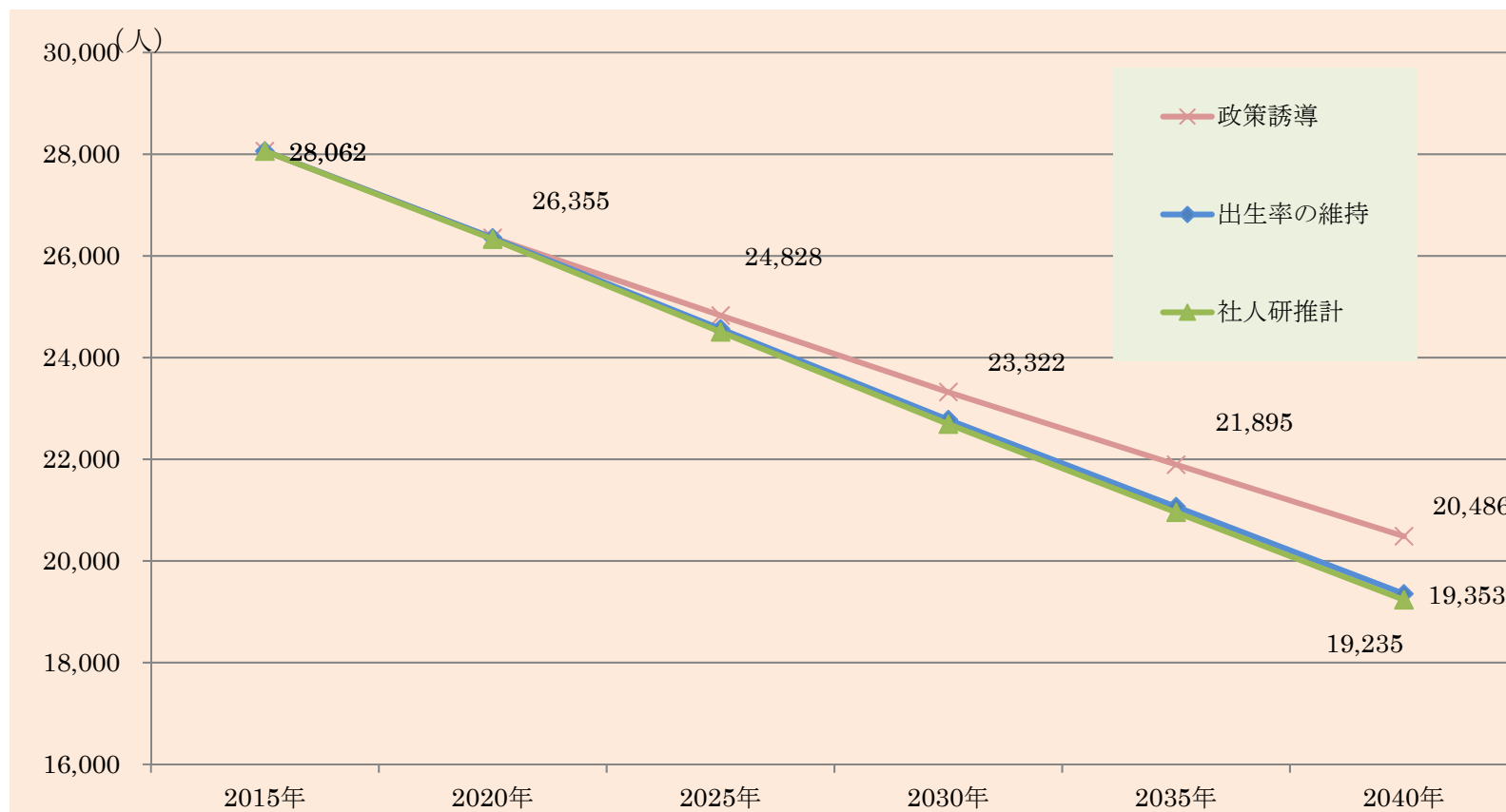
分野横断プロジェクト3【高校魅力化プロジェクト】

- 入学者数を確保するため、魅力ある高校づくりを支援する
- 高校を核とした地域づくり・人づくりの取り組みを推進する

9 第3章 遠野市人口ビジョン（人口推計と将来展望）

1 仮定値による将来人口の推計と将来展望

本市は、合計特殊出生率の上昇と、移住の促進による転出の抑制・転入の推進、地域みらい留学生（県外からの高校生）の受入れを図ることで、2040年の人口を社人研の推計より約1,200人多い、20,500人程度と推計する。



10 取組状況

項目	10月			11月			12月			1月			2月			3月					
遠野市まち・ひと・しごと 推進本部	●本部会議									●本部会議			●本部会議			●本部会議					
遠野市まち・ひと・しごと 推進作業グループ				●チーム会議			重点プロジェクト検討			→											
遠野スタイル創造・発展有 識者会議													●素案協議			●原案協議					
遠野市総合計画審議会																			●成案協議		
市議会全員協議会																●2/18（概要報告） ※成果品は3月末以降に配付					
計画公表（市Hp）																			●3月末		

11 遠野スタイル創造・発展有識者会議（1）

1 有識者会議構成委員

氏名	所属
菅原 一雄	花巻農業協同組合
佐々木 弘志	遠野商工会
小向 敏夫 (代理:細川昭子)	遠野市校長会
鈴木 一史 (代理:多賀 聡)	県南広域振興局

氏名	所属
座長 佐々木 栄洋	地域づくり団体
畑山 英己	遠野市金融団
沼 徳之	遠野ひまわり基金法律事務所
佐々木 浩章	遠野テレビ

2 有識者会議開催状況

月日	名称	内容
2月6日	第1回有識者会議	<input type="checkbox"/> 素案協議（第2章遠野スタイル創造・発展総合戦略） ・第1期遠野スタイル創造・発展総合戦略の総括について ・第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略重点プロジェクト等について
2月28日	第2回有識者会議	<input type="checkbox"/> 原案協議 ・第1章遠野市人口ビジョン（調査分析）について ・第2章遠野スタイル創造・発展総合戦略について ・第3章遠野市人口ビジョン（人口推計と将来展望）について

12 遠野スタイル創造・発展有識者会議（2）

3 有識会議の主な意見・提言

項 目	内 容
(1) 人口ビジョン(調査分析)について	<ul style="list-style-type: none">・ 現在は70歳まで働く人も多いので、生産年齢人口を70歳までと捉えることがあっても良いのではないか。・ これからは、もっと長く働いて、市民みんなで遠野市を創っていきましょうというメッセージを発信することで、市民のアクションが変化すると考える。・ 15歳から働く若者はいないと思う。生産年齢人口の捉え方を現実的なものにした方が良く考える。・ 人口ピラミッドを複数年掲載することで、若い世代が遠野に戻ってきているか分かると思うので、前回のデータも掲載すること。
(2) 第1期総合戦略の総括について	<ul style="list-style-type: none">・ KPIの達成状況が低いものや200%を超えるものの分析をさらに追加して、次の戦略につなげること。・ 新規学卒者がなぜ減少したのか、さらに分析して正しい評価につなげること。・ 児童館を利用する児童が増加することが、子育て支援だろうか。利用児童の満足度を高めるべきではないか。

13 遠野スタイル創造・発展有識者会議（3）

3 有識会議の主な意見・提言

項 目	内 容
(3) 第2期総合戦略重点プロジェクト等について	<ul style="list-style-type: none">・ 人口は様々な施策に影響するので、少しでも減少を和らげるように戦略を推進すること。・ KPIの基礎データを分析して、明確に目標を設定する必要がある。・ KPIは現実的な数値目標を設定すること。・ SDGsやソサエティ5.0等の解説を記入すること。・ 一方のKPIを高く設定することで、他方のKPIが低くなることはないか、KPIの関係性を整理する必要がある。・ 関係人口、交流人口、定住人口を戦略的に展開していくことで、空き家対策にもつながると考える。
(4) 人口ビジョン(人口推計と将来展望)について	<ul style="list-style-type: none">・ 計画の構成を見ると、第1章の現状の人口分析から、第2章の重点プロジェクトの展開、第3章は政策誘導により社人研の推計よりも人口を維持する戦略となっている。まとめの部分で重点プロジェクトを積極的に展開し、人口維持の目標値を目指すということを強く表現すべき。